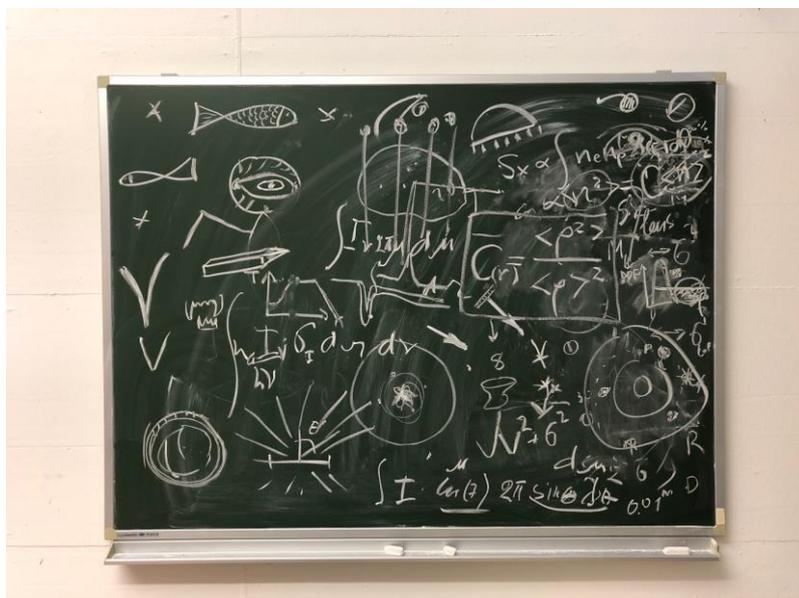


Max Planck Institute for Astrophysics にて
物理学専攻 博士課程 2 年 田原弘章

2019 年 2 月 1 日から 3 月 30 日までの 2 ヶ月間、ドイツのミュンヘンに在る Max Planck Institute for Astrophysics を訪ね、小松英一郎教授の研究室に滞在しました。到着当初は博士課程でこれまで取り組んできた修正重力理論について、その観測的可能性を共同研究しようと考えていましたが、ただ話し合ううちに、宇宙論の大家である小松先生のところにせっかく来たのだから、もっと広い視野を持って取り組む課題を探すべきだろうと考えなおしました。最終的に形になったのは小松先生に提示されたテーマで、散乱超新星爆発におけるニュートリノのスニヤエフ・ゼルドビッチ効果についてでした。これは、宇宙マイクロ波背景放射のスペクトルゆがみを記述するカンパニーツ方程式を、超新星爆発に応用する話です。これまでの私の研究とはまったく繋がりが無いテーマでしたが、学部生の頃のゼミ・演習では何かとニュートリノに縁があったので、記憶と文献を引っ張りだしながら理論式の計算を終えることができました。受け入れて懇切に面倒を見てくださった小松先生と、様々な形でご支援をいただき送り出してくださった横山順一先生に改めて御礼申し上げ、また、このような機会をくださった物理学専攻と ALPS のみなさまに感謝いたします。



研究室到着時に居室の黒板が素敵だったので。
どんな議論をしたのか想像が広がります。